令和５年度　京都市予算案　事業概要

交通局

事務事業名	なりふり構わない経営改善		
予　算　額	11,000 千円	新規･充実･継続の別	新規
担　当　課	企画総務部　総務課（863－5031） 企画総務部　企画調査課（863－5061） 企画総務部　営業推進課（863－5065）		

［事業実施に至る経過・背景など］

市バス・地下鉄事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により御利用は大幅に減少し、運賃収入は、コロナ禍前の令和元年度に比べ、この３年間で約３４０億円の減収となる見込みである。

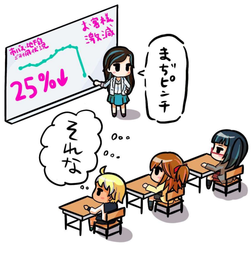
未曾有の経営危機に直面する中、市バス・地下鉄の持続可能な事業運営を目指し、経費削減と収入増加・利用促進のほか、国等に対して粘り強い支援要望に取り組み、より一層の経営健全化を推進する。

［事業概要］

あらゆる事業見直しにより、令和５年度においては約６億円の経費削減を図るほか、主に以下の収入増加・利用促進策に取り組む。

（主な収入増加等の取組）

- **一人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進活動の展開**
  文化庁や京都市立芸術大学の移転を契機とした利用促進の取組のほか、あらゆる機会を捉えた利用促進に取り組む。
- **ポイントサービスの導入によるＩＣ化の推進**（令和５年４月）（再掲）
  市民利用の多いＩＣカード（ＩＣＯＣＡとＰｉＴａＰａ）に限定したポイントサービス（乗継ポイント、利用額ポイント、ＩＣ２４Ｈチケット）を導入し、市民を中心とした御利用頻度の高い方が、お得に御利用いただけるサービスを開始する。
- **まぢピンチキャラクターのＬＩＮＥスタンプの販売**
  経営状況等の「見える化」の取組として制作した『まぢピンチキャラクター』を、ＬＩＮＥスタンプとして新たに販売することで、増収と「見える化」の促進を図る。
- **ふるさと納税や寄付の獲得による資金の調達**
  市外から多くお客様がお越しになる春・秋の観光シーズンに配布するリーフレット等を活用してふるさと納税のＰＲなど、新たな取組により資金調達を図る。



まぢピンチキャラクター

［参　考（他都市の状況・事業効果など）］

令和５年度　京都市予算案　事業概要

交通局

事務事業名	輸送の安全確保と利便性の向上事業		
予　算　額	26,883 千円	新規・充実・継続の別	新規
担　当　課	高速鉄道部　運輸課（863－5223）		

［事業実施に至る経過・背景など］

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくとともに、快適性と利便性の向上を図る。

［事業概要］

これまでの新型コロナウイルス感染症対策を継続するほか、主に次の取組を新たに実施し、「安全・安心」の更なる向上を図る。

・駅エスカレーターの安全利用に関するマナー啓発

これまでからポスター掲示などによりエスカレーター利用時のマナー啓発に取り組んできたが、エスカレーターを駆け上がるなどの危険な行動がいまだ見受けられる。エスカレーター床面などに「２列で」「立ち止まって」御利用いただけるよう啓発する案内サインを新たに設置し、更なるマナー向上に取り組む。

・烏丸線各駅のホームにおける安全対策

烏丸線の可動式ホーム柵未設置駅（１１駅）における軌道への転落防止対策として、ホーム上のベンチを線路に対して垂直となる向きへ付け替える。

［参　考（他都市の状況・事業効果など）］

令和５年度　京都市予算案　事業概要

交通局

事務事業名	市バスの混雑対策		
予　算　額	893,006 千円	新規・充実・継続の別	新規
担　当　課	企画総務部　企画調査課（863－5022） 自動車部　運輸課（863－5132）		

［事業実施に至る経過・背景など］

コロナ禍前においては、市バス事業では、路線・ダイヤの充実など利便性向上の取組と共に、通勤・通学での御利用など、お客様数は順調に増加し、一方で、外国人観光客の増加も相まって、一部路線においては顕著な車内の混雑が生じるなどの課題が発生していた。

今後、京都観光の力強い回復に向けて、市民生活と観光の調和の下、市民・観光客の双方に共に便利で快適に御利用いただける市バスを目指し、「市バス輸送力の再配分・増強」と「地下鉄を生かした移動経路の分散」を基本方針に混雑対策を推進する。

［事業概要］

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑対策として、２つの方針を掲げ、主に以下の取組を実施する。

１　市バス輸送力の再配分・増強

春秋の観光シーズンなど多くのお客様の御利用が見込まれる場合に、既存系統の増便や観光に便利な臨時バスを積極的に運行するほか、令和６年３月のダイヤ改正に向けて、現行の輸送力（運転士・車両）を再配分し、これを最大限活用することにより、観光客の回復で生活利用と相まって混雑が生じる系統や御利用の回復が顕著な系統の輸送力の増強に取り組む。

２　地下鉄を生かした移動経路の分散

（バスから地下鉄への利用誘導）

・市バスから地下鉄への無料振替（振替輸送）の充実

混雑のピークとなる観光シーズンの午後の時間帯に「東山三条」及び「金閣寺道」バス停で実施している市バスから地下鉄への無料振替（振替輸送）について、令和５年度は実施場所を拡充し、新たに「銀閣寺道」及び「岡崎公園 美術館・平安神宮前」バス停でも実施する。

・バス１日券の廃止（令和５年９月末発売停止、令和６年３月末利用停止）

市バスの混雑の要因の１つと考えられる「バス１日券」を廃止し、「地下鉄・バス１日券」を生かし、市バスから地下鉄への利用促進を図る。

（バス・地下鉄の相互利用の促進）

・ＩＣカードによる乗継割引（ポイント還元）の実施（令和５年４月）

ＩＣＯＣＡとＰｉＴａＰａに限定した乗継ポイント等を導入し、市民を中心とする利用頻度の高い方の分散化を図り、快適に移動していただくとともに、混雑緩和を図る。

［参　考（他都市の状況・事業効果など）］

令和５年度　京都市予算案　事業概要

交通局

事務事業名	市バス・地下鉄における社会課題解決への貢献		
予　算　額	1,986 千円	新規・充実・継続の別	新規
担　当　課	企画総務部　営業推進課（863－5065） 自動車部　技術課（863－5153） 高速鉄道部　営業課（863－5213） 高速鉄道部　運輸課（863－5223）		

［事業実施に至る経過・背景など］

市民の暮らしと京都の都市活動を下支えする交通インフラとして、子育て世代への支援や環境への配慮など、持続可能な社会の実現を目指すＳＤＧｓの達成はもとより、移住・定住などの都市の成長戦略の進化に向けた取組を展開する。

［事業概要］

・電気バスの導入に向けた検討

カーボンニュートラルに貢献するため、大阪・関西万博の開催に合わせた導入を目指し、費用や運用面の課題抽出など調査・検討を開始する。

・地下鉄駅トイレへのサニタリーボックスの設置

男性用トイレなどこれまで未設置であった個室にサニタリーボックスを設置し、尿漏れパット等を使用しているお客様にも安心して御利用いただける環境を整備する。

（設置箇所：烏丸線３１か所、東西線４２か所）

・地下鉄駅トイレへの生理用品無料提供サービスの実施に向けた検討

社会的課題の一つである「生理の貧困」の解決に向け、生理用ナプキンの無料提供サービスの導入に向けた検討を行う。

・地下鉄駅構内への授乳スペースの試行設置

乳幼児を育児している子育て世代の皆様にも安心して御利用いただけるよう、地下鉄駅構内に授乳スペースを試行的に設置し、「子育てに優しいまち」を推進する。

（設置箇所：東西線　東山駅　１か所）

・ベビーカー利用に係る理解・配慮の啓発

市バス全車両の前面にベビーカーマークの大型ステッカーを掲出し、ベビーカー利用に対する周囲の理解を深めていただくための啓発を行う。

［参　考（他都市の状況・事業効果など）］

令和５年度　京都市予算案　事業概要

交通局

事務事業名	市バス・地下鉄における京都市成長戦略の推進		
予　算　額	79,011 千円	新規・充実・継続の別	新規
担　当　課	自動車部　運輸課（863－5132）		

［事業実施に至る経過・背景など］

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるお客様と運賃収入の大幅な減少で、市バス事業はかつてない経営危機に直面しており、さらに、今後においては、人口減少と高齢化等で通勤や通学などの人々の日常的な移動そのものの減少が見込まれる。

京都市の都市機能に不可欠な交通基盤の一つである市バス事業を将来にわたって維持していくには、都市の魅力や活力を市民の豊かさにつなげ、移住・定住や企業誘致を促進する成長戦略で京都市が持続可能な発展をし、これを支える市バスをはじめとした公共交通も共に発展、更には力強く牽引していくことが重要である。

こうした認識の下、持続可能な社会インフラとして、京都市の成長戦略と軌を一にし、市民生活と観光の調和を図りつつ、より効率的な路線・ダイヤと運行情報のオープン化による利便性の向上で、誰もが安心して住み続け、学び、働くことができ、また、誰もが訪れ、文化をはじめ多様な魅力に触れることができる京都を目指していく。

［事業概要］

１　市バスダイヤ改正

「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】（2021－2028）」（令和４年３月策定）に基づき、一層効率的で利便性の高い路線・ダイヤ編成で将来にわたって市民生活と都市活動をしっかり支えていくため、近年の御利用状況やニーズ等の変化、また、「京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会」から提出を受ける答申の内容も踏まえ、令和６年３月にダイヤ改正を実施する。

【今後のダイヤ改正における取組の視点】

①日々の御利用のお客様の利便性の確保や向上等への対応
②観光で御利用のお客様への対応と市民の皆様の日々の御利用との調和
③事業運営の一層の効率化
④新たな御利用の開拓

２　市バスの運行情報の更なるオープンデータ化

各停留所の時刻表や位置、各系統の運行経路等、ダイヤ改正ごとに更新する市バスの運行情報（静的情報）を、国が定める標準フォーマット（GTFS-JP）によるオープンデータとして公開し、民間事業者等が提供する経路検索サービスの内容の向上など、多様な活用を促進することで、市バスの利便性向上を目指す。併せて、走行中の市バス車両の位置や車内の混雑状況等、リアルタイムの運行情報（動的情報）を提供するためのシステム構築に向けた検討に着手する。

［参　考（他都市の状況・事業効果など）］